

---

# 「情報バリアフリー事業助成金」

(チャレンジド向け通信・放送役務提供・開発推進助成金)

## 活動報告書

聴覚障がい者の学びの場の提供

～モバイル型情報保障サービス(e-ミミ)～

平成25年9月19日

株式会社アイセック・ジャパン

# 目次



1. 会社概要
  - 会社概要
  - (参考)日経ビジネス「日本を救う次世代ベンチャー100」
2. 事業の背景 ~耳の不自由な方の現状~
3. モバイル型遠隔情報保障システムイメージ
4. 平成24年度助成事業の成果内容
5. 南風原高校での事例紹介
6. 武雄市議会での事例紹介
7. 実施成果 ~平成24年度~
8. 申請事業の概要
9. 助成期間中の成果目標~事業実施3年計画~

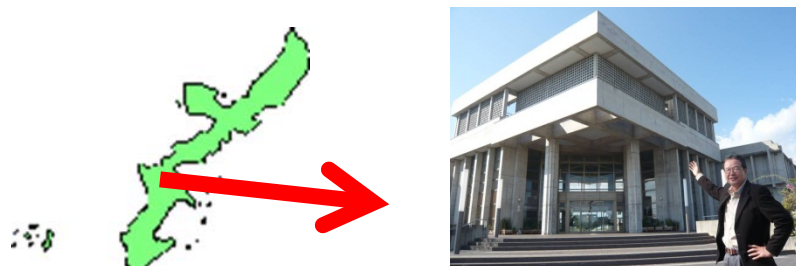


アイセック

# 1. 会社概要

会社名	株式会社アイセック・ジャパン
所在地	沖縄県うるま市川崎468番地 いちゅい具志川じんぶん館1F
設立	2008年9月1日
資本金	1,700万円
代表者	一瀬 宗也(いちせ むねや)
主要事業	モバイル型情報保障サービス(e-ミミ) インターネット販売 ITスキル向上支援 ビジネスライブチャットコールセンター ソフトウェア開発
連絡先	電話:098-972-6888 FAX:098-987-5627 E-mail:iscec-j@iscecj.co.jp

2008年9月	「チャットコールセンター」(ホームページのお店番)で沖縄県産業振興公社平成20年度ベンチャー育成連携事業のアドバンス認定を受け、沖縄県うるま市に設立
2011年6月	沖縄県情報産業振興課「BPO事業拠点集積促進事業」を受託し、「モバイル型遠隔情報保障センター」を開設(新規雇用11名)
2012年4月	プライバシーマーク取得
2012年4月	沖縄県産業振興公社「OKINAWA型産業応援ファンド事業」の採択を受け、観光向け新商品開発を開始
2012年6月	(独)情報通信研究機構の「平成24年度 チャレンジド向け通信・放送役務提供・開発推進助成金」の採択を受け、学びの場への提供
2012年7月	沖縄銀行「おきぎんふるさと振興基金」に採択
2012年10月	日経ビジネス(日経BP社発行)の「日本を救う次世代ベンチャー100」に選考
2012年11月	経営革新計画の認証
2013年3月	沖縄県ワークライブバランス企業認証



うるま市いちゅい具志川じんぶん館

# (参考) 日経ビジネス「日本を救う次世代ベンチャー100」



## 特集

- 23 介護のカネの悩みを解消  
▶カワムラFPコンサルティング  
(東京都中央区, 2011年)
- 24 ネット時代の格安葬式  
▶ユニクエストオンライン  
(大阪市, 2006年)

ち家計が破綻しかねない。カワムラFPは、そうした危機的状況に陥った家庭に対し、税金や国民健康保険、介護保険、後期高齢者医療制度などを包括的に活用し経済的負担を軽減するノウハウを提供。各家庭に最適な施設探しも手伝い、トータルで介護世帯をサポートする。

もともと保険会社に勤務していた河村社長が介護者の相談に乗るようになったのは、自らが母親の介護で苦労した経験があったからだ。

「介護は、ある日突然始まり、そうなる前に理想以上の経済的負担に途方に暮れることになる。保険や医療制度についての知識があればいいが、そうした勉強をする時間がない人も少なくない」と河村社長は語る。

さらに、高齢化対策分野では、人々の「死後のカネの悩み」に応える新興企業も登場している。

日本消費者協会によると、葬儀費用の全国平均額は126万7000円。介護同様、一般家庭にとっては決して安い金額ではない。インターネットで検索すれば数十万円で葬儀を請け負う業者も見つかるが、実際には「搬送費用」「安置料金」「ドライアイス」など追加料金が加算され、結局、100万円を超える請求が発生する場合が少なくない。

**格安葬儀を年間1万件**

そんな中、「追加料金は一切不要」を合言葉に、低料金で葬儀を請け負うベンチャー企業が話題を呼んでいる。2006年設立のユニクエスト・オンライン(大阪市、田中智也社長)だ。

通夜・告別式を実施せず、直葬(火葬のみ)というプランを選べば、わずか17万8000円。ほかにも、火葬だけでは忍びないという顧客のために、「火葬+告別式」のプランや、「火葬+告別式+通夜」のプランも設けているが、それぞれ33万8000円、49万8000円と破

格の価格を打ち出している。

自社で葬儀場を持たず、全国5000の葬儀場、900の葬儀社とのネットワークを築き事業展開する独自のスタイルも、価格破壊ができる理由の1つだ。ネットとコールセンターで24時間365日注文を受けて、全国の葬儀場をすぐに手配する。2012年7月期は年間受注件数が1万件を突破、葬儀部門の手数料収入が5億5000万円に上った。

「終活」と称し、「人生の最後」を迎える準備を前向きに進める人が増えている。そうした中には、子供や親戚に経済的な負担をかけたくない、自ら質素な葬儀を望む人も少なくない。そんな高齢者にとって、ユニクエスト・オンラインのような企業は貴重存在と言える。

介護、アンチエイジング、社会参加支援、高齢者関連の財務相談、シンプル葬儀…。日本社会の高齢化が一段と進む中、次世代技術を武器にする最先端ベンチャーから、アイデア勝負のユニーク商売まで、様々な「老いの不安解消ベンチャー」が今後も活躍するのは間違いない。

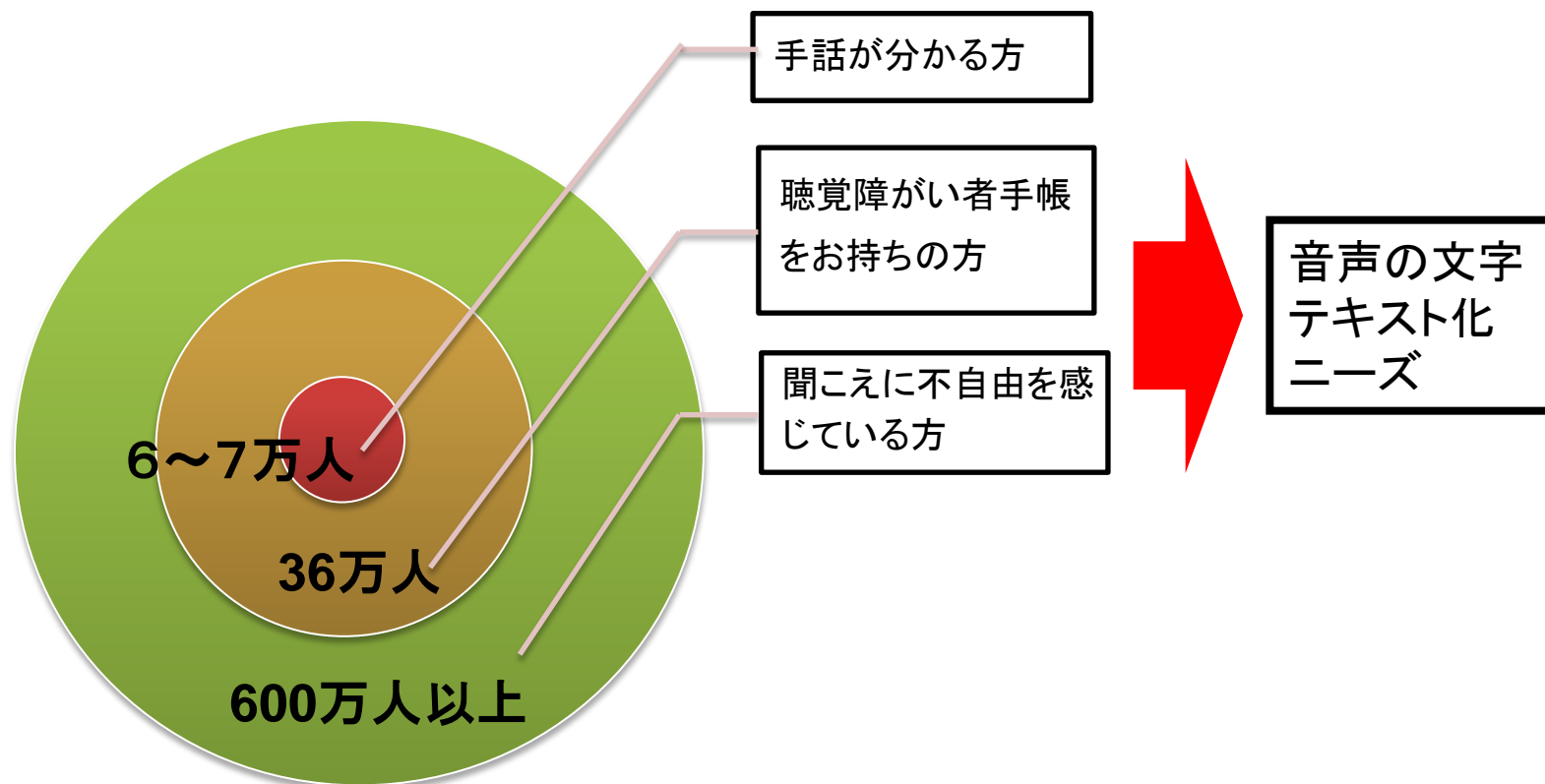
ほかにもある 高齢化社会対策ベンチャー

- 25 聴覚障害者へ瞬時に文字  
▶アイセック・ジャパン  
(内閣府, 2008年)
- 26 老人の手書き文字も認識  
▶アイテック  
(東京都中央区, 2011年)
- 27 ヘルパーが旅に同行  
▶旅のお手伝い倶楽部  
(京都府, 2006年)
- 28 中高年の婚活支援  
▶アイリンク  
(東京都港区, 2010年)
- 29 少子化を防ぐ顕微鏡  
▶エクスピジョン  
(東京都文京区, 2009年)

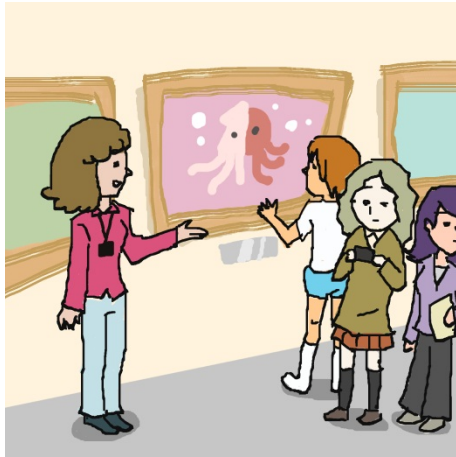
## 2. 事業の背景 ～耳の不自由な方の現状～



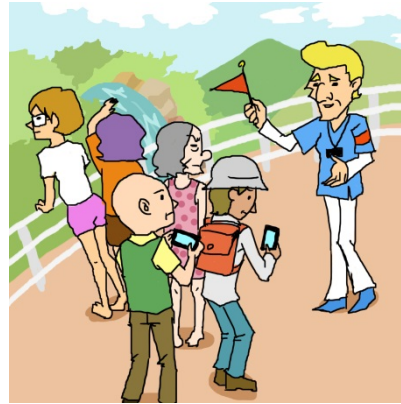
聴覚に障がいがある身体障がい者手帳を交付されているのは約36万人です。そのうち手話が分かるのは約14%の7万人程度です。障がい者手帳をもっていなくても聞こえに不自由を感じている方は600万人以上いると言われています。高齢化社会に伴い10年後には、800万人以上に上ると言われています。



# 3. モバイル型遠隔情報保障システムイメージ



美術館・博物館ガイド



屋外ツアー



乗り物の中



会議・講演会

遠隔情報保障センター

学校の授業

# 4. 平成24年度助成事業の成果内容

南風原高校  
明晴学園で  
実施



学校(授業)

実績多数



講演会・セミナー



議会

①該当生徒の成績向上  
(南風原高校):  
学年13位→3位

②該当生徒の普通高校への進学:  
日体荏原高校・都立大森高校



遠隔情報保障センター

佐賀県武雄市議  
会の同時音声文  
字通訳受注

# 5. 南風原高校での事例紹介

沖縄タイムス 2013年(平成25年)7月20日 土曜日

## タブレット 授業手助け



### 先生の声、瞬時に文字化 南風原高校

補聴器を頼らず成績アップ

前里桃子さん

先生が話している内容を瞬時に文字化してタブレットに表示するシステムを導入した南風原高校の授業風景。生徒は先生の話を聞きながら、タブレット上で授業内容を確認している。

南風原高校は、補聴器を必要としない生徒の学習をサポートするために、独自のシステムを導入した。このシステムは、先生の声をリアルタイムで文字化し、タブレットに表示する。これにより、補聴器を必要としない生徒も先生の話をしっかりと聞き取ることができるようになった。

前里さんは、このシステムを導入してからは、授業の理解度が大幅に向上した。先生の話を聞きながら、タブレット上で授業内容を確認することで、授業の理解度が大幅に向上した。先生の話を聞きながら、タブレット上で授業内容を確認することで、授業の理解度が大幅に向上した。

南風原高校は、補聴器を必要としない生徒の学習をサポートするために、独自のシステムを導入した。このシステムは、先生の声をリアルタイムで文字化し、タブレットに表示する。これにより、補聴器を必要としない生徒も先生の話をしっかりと聞き取ることができるようになった。

前里さんは、このシステムを導入してからは、授業の理解度が大幅に向上した。先生の話を聞きながら、タブレット上で授業内容を確認することで、授業の理解度が大幅に向上した。先生の話を聞きながら、タブレット上で授業内容を確認することで、授業の理解度が大幅に向上した。





## 6. 武雄市議会での事例紹介

### 地方議会の議事

## 字幕付けネット中継 アイセック・ジャパン

IT（情報技術）関連ベンチャー企業のアイセック・ジャパン（沖縄県うるま市、一瀬宗也社長）は27日、地方議会の議事内容を字幕化し、インターネット中継するサービスを始めると発表した。

### まず佐賀・武雄市向け

まず佐賀県武雄市議会を6月3日から中継。聴覚障害者の地方政治への参加促進や、字幕情報を議事録作成に活用できる利点などを売り込み、受注拡大を目指す。

第1弾として、佐賀県武雄市議会から業務を受託した。同市議会と社

を電話回線などで結び、議事音声を同社担当者が

数人で交互に文字情報を

入力する。字幕情報は2

〜5秒後にネット配信。

音声認識技術を使わず、人手で入力するため精度も高いという。字幕はネット中継のた

め、体の不自由な高齢者が自宅などで閲覧することも可能。字幕情報は随時保存し、議事録の作成にも活用する。

料金は議事録の作成を含め、議事1時間当たり4万〜5万円程度。同社は今年度に2〜3件、来年度には10件程度の受注を目指す。



## 8. 申請事業の概要

テーマ:「聴覚障がい者の学びの場の提供」

南風原高校  
日体荏原高校  
で実施



学校(授業)

4月から情報保障開始

- ・南風原高校(数学応用・生物)
- ・日体荏原高校(地理・現代文・科学)

9月から情報保障開始(追加2校)

- ・コザ高校(数学Ⅲ)
- ・都立大森高校(保健体育・地理)

### 自立化へのビジネスソース



講演会・セミナー



議会



遠隔情報保障センター

聴覚障がい者など「聞え」に問題のある人に学びの場の提供として、遠隔地から同時音声文字通訳を実施する。

# 9. 助成期間中の成果目標～事業実施3年計画～

H24.7-H25.3

## 学びの場の提供 ステップ1

- ・普通高校進学予定聴覚障がい学生への国語・社会授業での文字情報提供  
**普通高校2年次生徒の情報保障**
- ・講演会・セミナーでの文字情報配信の販路開拓

H25.4-H26.3

## 学びの場の提供 ステップ2

- ・普通高校**3年次**、1年次聴覚障がい学生への授業での文字情報配信
- ・講演会・セミナーでの文字情報配信の販路拡大
- ・**議会での文字情報配信及び議事録作成**

H26.4-H27.3

## 学びの場の提供 ステップ3

- ・普通高校2年次聴覚障がい学生への授業での文字情報配信
- ・講演会・セミナーでの文字情報配信のビジネス化完了
- ・**議会への販路拡大**

情報バリアフリー事業